

「先進国日本における『ジェンダーと防災』をどう考えるか」

1. 私とジェンダー問題
2. 地域防災(共助)におけるジェンダー
3. ジェンダーと災害後の社会格差

「問いかけ」
一緒に考えたい

ジェンダー
の素人から
スタート

加藤孝明

東京大学生産技術研究所准教授

内閣府ジェンダーと防災有識者懇談会 座長(2017.3～)

【専門分野:まちづくり・都市計画・防災・地域安全システム学】

1. 私とジェンダー問題

- 原体験(～18歳)
 - 3人兄弟(女, 男(-1), 男(-4))+強い母+(一見)弱い父
- 高校生(県立共学)(15歳)
- 東京大学のトイレ(19歳)
- 東京大学都市工学科を選択して, 進学
 - 都市計画とは, 「社会のひずみの是正」. 「すべての人が人間らしい環境で生活する権利を保証するためのもの」
- 地域防災支援の実践(37歳～) 7市区26地区+α
 - 葛飾区新小岩北地区での事例(40歳)
 - 「〇〇さんのご主人」と呼ばれる8代目江戸っ子町会長
 - 茅ヶ崎市での出来事(44歳)
 - 「天下国家の話は結構ですので, 私たちの暮らしの話をしてください」
 - 川崎市での出来事(47歳): 「ご職業は何をされてますか?」. 後ろに控える町会長
 - 目黒区での出来事(49歳): うちの町会は女性上位です.
 - 板橋区まちなかの学校(NPOが主催): 「高齢者地域福祉・医療と防災」
 - 葛飾区新小岩北地区連合長会会長は嫁に来た女性(48歳)
- 東日本大震災被災集落(釜石市)の復興支援(44歳～)
 - 議論する男性, 動く女性, . . . , 動く女性につられて, 動き出す男性
- 新しい地域づくりモデルのヒント探し(46歳～)
 - 先進的集落づくりのトップランナー: 徳島県伊座利集落「たかが100人, されど100人」
 - 一見, 男社会の成功事例. . . . 「男だけの視察団は受け入れたくない」
- 内閣府ジェンダーと防災有識者懇談会 座長(50歳)(2017.3～)
- 同窓会(50歳)
 - 中学生, 高校生, 成人式, そして50歳の同窓会.

災害時の社会格差の
是正

時代の変化への対応
+ 巨大災害への備え

共助の最大化

適切な復興の実現
(同じ轍は踏まない)

旧来システムを
変える力

新しいモデルが不可欠

2. 地域防災(共助)におけるジェンダー

■時代の要請・社会の要請

巨大災害への備え

➡公助の限界をふまえた主軸としての共助の重要性

時代の変化

➡旧来方法の限界

共助の最大化

新しいモデルの
確立

「防災【も】まちづくり」のすすめ方

地域の力を引き出す～市民先行・行政後追いの防災まちづくり～

いかに裾野を
広げるか

いかに前向きに
すすめるか

防災【も】まちづくり

総合性

内発性

自律発展性

市民先行・行政後追い

多様性

連携

加藤孝明

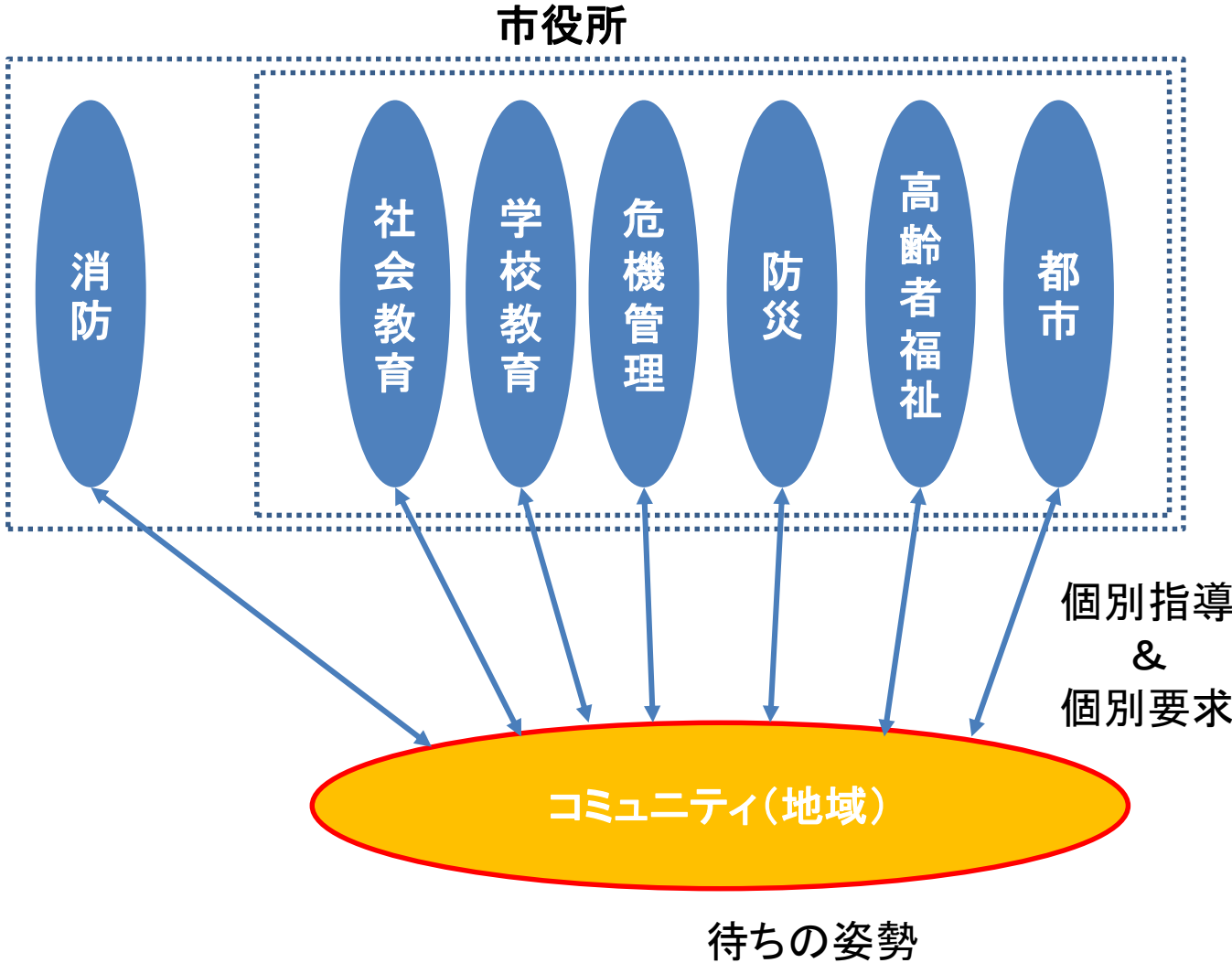
東京大学生産技術研究所

都市基盤安全工学国際研究センター

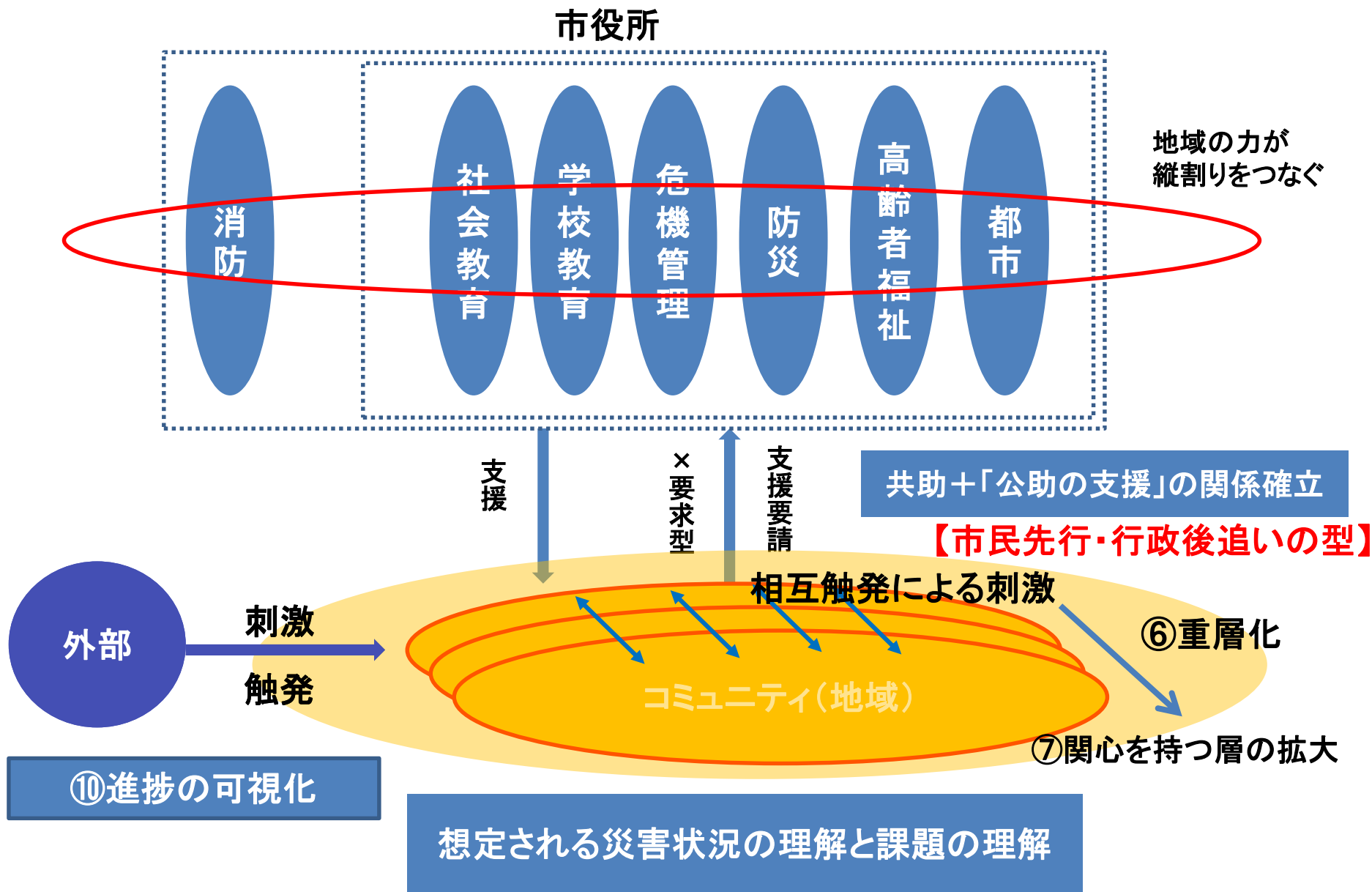
【専門分野:まちづくり・都市計画・防災・地域安全システム学】

地域安全学会・理事, 災害復興学会・理事

地域から進める防災まちづくりの従来型モデル



標準プログラム(試案):新しいモデル



3. ジェンダーと災害後(災害対応・生活再建)の社会格差

- 災害とは,
 - 平時のトレンドが加速する
 - ・ 例) 災害になると離婚が増える, 結婚が増える(通説)
 - 平時の問題が深刻化する
 - ・ 例) 災害になるとDVが悪化(浅野指摘)
 - 平時の格差が拡大する(災害の社会階層性)
- 平時の格差が拡大する(災害の社会階層性)
 - 直後:
 - 災害(被害)弱者: 社会的弱者は脆弱な環境にいるので, 被害を受けやすい,
 - ・ 平時のジェンダー格差が起因して被害が偏在する
 - 発展途上国での主要な問題
 - ➡現代日本にもあるかどうか要検証.
 - » 阪神・淡路大震災での生じた問題: 木造長屋の一人暮らし女性.
 - 災害対応期
 - 災害対応弱者: 災害対応に必要な資源(情報含む)にアクセスできない等の理由により苦難が偏る
 - ・ 平時の格差が起因して災害対応期の苦難が偏る(例えば, 避難)
 - 生活再建期:
 - 生活再建弱者: 社会的弱者は回復力(回復のための資源, 手段)が乏しいため, さらに格差が拡大する.
 - ・ 平時の格差が災害によって拡大し, 結果として生活再建不能となる。(例えば, 雇用)

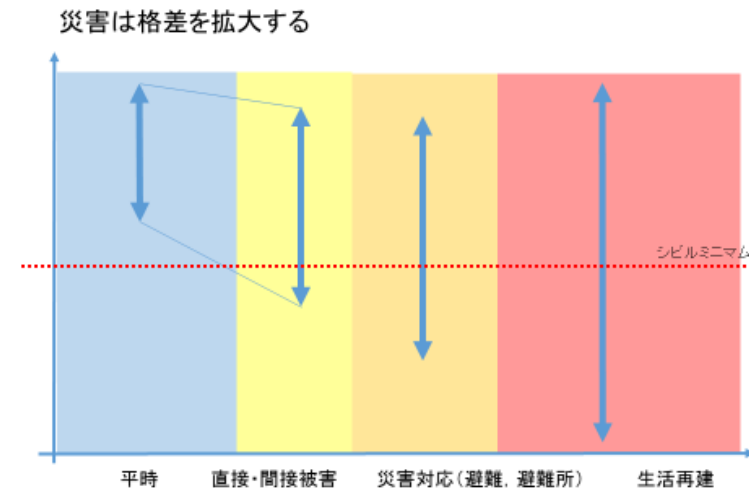


図1 災害は格差を拡大する
(直接・間接被害, 災害対応(避難, 避難所), 生活再建)

- 災害は格差拡大の一方で、
社会制度・慣習の枠が外れるという側面がある(かもしれない).
- ➡ ジェンダーフリーの社会像が垣間見られる(かもしれない)
 - 災害とジェンダー第一人者(イレイン・イナソン?)は肯定的(池田先生より), ただし...
 - 素の人間に戻る. 人の性根がでる. 「災害になると人は優しくなる」(国際航業の女性)
- ➡ 平時の社会慣習的・制度的縛りから解き放たれる.
- 「災害時のジェンダー研究は、平時のあるべき社会を導ける」
(かもしれない)

防災におけるジェンダーを議論するときの留意点

(170727「ジェンダーと防災有識者懇談会」加藤メモより)

- フェーズ: 事前防災 + 災害対応 + 生活再建 + (復興)
 - ただし, 復興は, 平時のまちづくり・都市計画における構造と同じ.
- 災害レベルとジェンダー・ケア(配慮)
 - スタンドアードとして考慮されるべきだが, 発災時には, 命を守るという観点からの優先順位づけの対象(発災時の施策トリアージの対象).
 - 避難所問題に関しては, そもそも避難所の意味を再解釈し, 社会に訴求すべき.
 - 「避難所はだれでも受け入れる施設ではない」, 「避難所は優先席」であることを社会的に周知すべき. 例) 弱者(赤ちゃん連れや介護者付き)が避難所にいられず, あえて避難所に行かずに車中泊(池田先生).
- 議論の対象は誰か・目的は何か
 - 対象: 女性ではなく, むしろそれを取り巻く社会全体.
 - 目的: 女性が活躍できる場づくり(女性リーダーを育てること)だけではなく, 社会全体の意識改革
- バリアフリーからユニバーサルデザインへ
 - ユニバーサルデザイン: 「できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすること」が基本コンセプトである. デザイン対象を障害者に限定していない点, 一般に言われる「バリアフリー」とは異なる。(Wikipedia)
 - 災害時の「ジェンダーの(バリア)フリー」から「ユニバーサルデザイン」へ
 - ジェンダーの(バリア)フリー: ➡ 対症療法として重要だが, 男女共同参画局マター. 典型は避難所更衣室.
 - ユニバーサルデザイン的な発想でとらえるべし.
- どのような社会を目指すべきかという創造的思考をすべき
- ジェンダーという用語の表への出し方
 - 国際向けと国内向けを使い分ける.
 - 国際向け: ジェンダーを表にだし, 先進国日本からの防災ジェンダーの新たな視点・取り組みとして発信
 - 国内向け: 入口の敷居を下げるために敢えて前面に押し出さないことも重要.
 - 用語「ジェンダー」は一般になじみがなく, 直観的に理解されない.
 - 結果として用語「ジェンダー」を出すことが多様な人を巻き込みにくくする懸念あり.

ミッションと出口 (170727「ジェンダーと防災有識者懇談会」加藤メモより)

ミッション

- ①防災・災害ジェンダー問題の構造を分かりやすく提示
- ②防災・災害ジェンダー平等が実現された「社会像」を提示
- ③防災・災害ジェンダー平等から平時のジェンダー平等を実現する「プロセス」の提示
 - 大目標「防災からジェンダー平等を実現する」
- ④地域社会・自治体単位で「ジェンダー平等度」を計測(モニタリング)する指標体系と調査法の確立し, それを通してジェンダー平等が実現される社会を誘導する.
 - 国際的観点では, 次のフェーズの災害・防災ジェンダーの取り組みとしてアピール可能
- ⑤防災・災害ジェンダー平等実現を改善するための支援, および, 社会的な雰囲気づくり
 - 国内的に非常に重要

議論の出口

- 国内向け
 - 社会全体の意識改革を図るための問題的と対市民キャンペーンの実施
 - ツールとしては地区防災計画.
 - 他省庁へのメッセージ. 災害救助法, 厚生労働省政策等,
 - ➡ 平成30年(2018年)国民防災推進会議(議長:総理大臣)
- 国際向け
 - ➡ モニタリングシステム(指標体系と調査法)を国際的に発信